

愛犬との
ふれあいの俳句



春

佐怒賀正美 選

特選

食べる犬逃げる犬ぬてシャボン玉

佐藤 節美

【評】

微笑ましく愉快な句。上五中七までは何を食べるのか何から逃げるのかが謎。そして下五に至って、実は「シャボン玉」だと種明かしされるような構成。それほど大きな犬ではなく子犬のような社会体験の少ない犬であろう。

春の虹映る窓辺に犬じつと

高地 雅美

【評】

雨が上がり窓越しに春の虹が見える。犬にも虹が見えるのであろうか。愛犬は窓辺にいて、不思議な雰囲気じつとしていて、吼えるでもなく、逃げるでもなく、不思議な体験を一つ記憶に刷り込んでいるかのようだ。

花見客のあいだずいずい秋田犬

野上 卓

【評】

秋田犬の存在感がぐっと押し出されたような力感のある句。大勢の花見客たちで道はごった返したが、そんな中を秋田犬がどんと人波を分けて「ずいずい」と前に出て行く。威厳めく秋田犬を誰もが先に通すのだ。

犬乗せてタンクローリー雪解道

星月彩也華

【評】

タンクローリーに犬を乗せてよいかどうかは知らないが、雪解けの道を大型のタンクローリーが全重量を乗せるように確実に進んでいる。ふと運転席を仰ぐと、助手席に犬の顔が見える。緊張感の中の春先の心とむ一瞬。

ももいろの犬の耳うら春の風

前田 千文

【評】

耳うらとは面白い部位に着目したものだ。しかも、薄い桃色がかっているのであろう。ひとりでに春の風を招き寄せているような耳うらではないか。こんな耳うらを過る春風も柔らくてなかなか心地よさそうである。

入選

春眠を許さぬ犬の律義さよ

石山 敏郎

ふらここや近くて遠き犬の声

伊藤 照子

ドッグランデビューや白詰草の中

沖野 晶子

犬寄り添う祖母と能登に春兆す

佐藤 優子

つつんと乳飲む仔犬子供の日

塩谷 一茂

佳作

息荒く春はこつちとはしゃぐ犬

井上 秀子

鳥帰る後の夕焼け犬戻る

占部 耕三

夕されば小躍りの犬花薺

近江 堇花

青嵐厳しく小犬訓練す

大野 美波

沈丁花「待て」で撮影一歳の犬

大原 親佳

犬の舌触れて春眠目覚めけり

折田祐美子

避難所の側^{そば}の犬舎や春の能登

木村 達雄

虹の橋桜花びら届くかな

栗原 智美

愛犬は庭で転生^{てんしょう}すみれ咲く

小池 進

春一番モフモフ犬は風に立ち

佐藤 公

募集要項

- 日本で唯一の「犬」をテーマにした俳壇です。愛犬とのふれあいの中で得た感慨を俳句にしてご応募ください。
- 一般部門と児童・生徒部門（中学生以下）の2部門があります。
- 原則として、五・七・五の17音でまとめてください。
- 募集期間は「春（1～3月）・夏（4～6月）・秋（7～9月）・冬（10～12月）年4回の開催で、開催ごとに最終月末に締め切ります。
- 応募作品には、四季折々の「季節（季節を表す言葉）」を入れてください。
- ハガキの裏面に以下の必要事項をはっきり楷書で明記してください。①作品（自作未発表に限り、ハガキ1通につき2句まで）②住所氏名（ふりがな）、年齢、性別、電話番号 ※おひとり何通でもご応募いただけます。
- 送り先 〒101-8552 東京都千代田区神田須田町1-5（一社）ジャパンケネルクラブ広報課「愛犬とのふれあいの俳句」係

入賞・発表

- 開催ごとに以下の入賞句を選出します。
- 特選…5句
- 入選…10句
- 佳作…20句以内
- 児童・生徒の部入選…若干句
- ※入賞された方には記念品（図書カード）をお送りします。入選句は会報誌『JKCガゼット』に掲載されます。

春まけて犬と大いに走るなり

竹澤 聡

春の夜待ち受け画面亡き犬に

田中 浩温

犬はしやぎ蛙野面^{のめ}に吾を呼ぶ

辻本 智江

春惜しむ輪郭となり犬の背な

道願 麻子

犬雛を飾れば集ふ犬仲間

松下 弘美

愛犬と夢のふくらむ花菜土手

佐藤真知子

お花見のブルーシートに犬の尻

杉本 谷夫

老犬のいつまで君と桜見る

鈴木 広子

春みかん座り見つめる子犬かな

辻 栄春

春近しなわとび好きな犬と孫

都築 広子

細き雨残る寒さや犬抱けり

中田美砂子

春光や人と人を結ぶ犬

なかみなみこ

犬連れて口笛軽く花の土手

野村 信廣

愛犬の飛びのくしぐさ椿落つ

山下 奈美

ベビーカー乗ったチワワも春帽子

渡会 克男